

2017 年度(2017 年 4 月～2018 年 3 月)
公衆衛生看護学分野 業績

分野構成 (2018 年 4 月 1 日時点)

教授：大森純子、准教授：田口敦子、助手：竹田香織、研究補佐員 2 名
大学院（博士課程）5 名、大学院（修士課程）12 名、卒業研究生 11 名

主な研究テーマ

米国の公衆衛生領域で主流となっている（CBPR：Community Based Participatory Research）という研究スタイルを用い、保健師など保健行政の関係職種や住民の方々と一緒に、「地域への愛着」を育む健康増進プログラムの開発、「近隣住民間の交流促進プログラムの開発」などに取り組み、個人変容と社会変容に参画しています。また、コミュニティの互助促進を含む、行政と住民ボランティアの効果的な協働方法を探索しています。

【主な研究テーマ】

1. 文化と健康観・ヘルスプロモーションに関する研究
2. 地域への愛着と健康に関するプログラム開発，地域への愛着を育む方法論（メソッド）開発
3. コミュニティの互助促進に関する研究
4. 行政と住民ボランティアの効果的な協働方法および評価に関する研究
5. 地域保健をめぐる政治・行政に関する研究

主な研究業績 (2014 年 1 月以降) ※2014 年 1 月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・酒井太一，大森純子，高橋和子，三森寧子，小林真朝，小野若菜子，宮崎紀枝，安齋ひとみ，齋藤美華. 向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌. 2017; 63(11):664-674.
- ・Taguchi A, Murayama H, Murashima S. Association between municipal health promotion volunteers' health literacy and their level of outreach activities in Japan. PLoS ONE, 2017; 11(10).
- ・大森純子，三森寧子，小林真朝，小野若菜子，安齋ひとみ，高橋和子，宮崎紀枝，酒井太一，齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014; 3(1):40-48. (2016 年日本公衆衛生看護学会学術奨励賞(優秀論文部門)受賞)
- ・大森純子，小林真朝，小野若菜子，麻原きよみ. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014; 40:105-11.
- ・Asahara K, Ono W, Kobayashi M, Omori J, Momose Y, Todome H, Konishi E. Ethical issues in practice: A survey of home-visiting nurses in Japan. Japan Journal of Nursing Science. 2013; 10:98-108. (2014 年日本看護科学学会表彰論文優秀賞受賞)

【主な著書】

- ・神馬征峰，大森純子，宮本有紀（編）. 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度②公衆衛生 第 2 章 公衆衛生の活動対象. 東京：医学書院；2015. p45-60.

【主な学会発表】

- ・大森純子. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会大会長. 2017 Jan 21-22.
- ・山崎菜穂子，田口敦子，村山洋史，山口拓洋. 高齢期の食品摂取多様性向上を目指した健康推進員主導型プログラム：プロセス評価. 第 75 回日本公衆衛生学会総会；2016 Oct 26-28；大阪. (第 75 回日本公衆衛生学会総会優秀ポスター賞受賞)
- ・田口敦子，三笠幸恵，三森寧子，小林真朝，小野若菜子，高橋和子，酒井太一，宮崎紀枝，安齋ひとみ，齋藤美華，大森純子. “地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 第 1 報 プログラムの作成と実施. 第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会；2016 Jan 23-24；東京. (2016 年第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会優秀ポスター賞受賞)

【研究業績（2017年分）】

1. 原著論文・総説（査読あり）

- Kamei T, Takahashi K, Omori J, Arimori N, Hishinuma M, Asahara K, Shimpuku Y, Ohashi K, Tashiro J. Toward Advanced Nursing Practice along with People-Centered Care Partnership Model for Sustainable Universal Health Coverage and Universal Access to Health. Revista Latino-Americana de Enfermagem. 2017; 25:e2839 DOI: 10.1590/1518-8345.1657.28
- Kageyama M, Shimazu T, Taguchi A, Nagata A, Magilvy K. Use of Analogy by Public Health Nurses in Problem Solving for Individual Consultations in Japan: A Multiple Case Study. Open Journal of Nursing. 2017; 7:345-60.
- 田口敦子, 村山洋史, 荒川美穂子, 寺尾敦史. 健康推進員組織の課題解決を目指した研修プログラムの効果. 日本公衆衛生雑誌. 2017; 64(4):207-216.
- 今野浩之, 高谷新, 青木実枝, 佐藤大輔, 田名部由香. 精神的問題を抱える児童および生徒に対する教諭の対応経験—小学校・中学校・高等学校における調査—. 山形保健医療研究. 2017; 20:61-72.
- 高谷新, 佐藤大輔, 田名部由香, 今野浩之, 青木実枝. 教諭から児の気になる様子を指摘された親の思いに関する考察. 山形保健医療研究. 2017; 20:97-112.

2. 著書

--

3. 原著論文・総説（査読なし）/紀要・解説

- 大森純子, 田口敦子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 戸田亜紀子, 矢野しのぶ, 三笠幸恵, 地域への愛着研究会. 地域への愛着を育む取り組み—新たな英略的实践の開発. 保健師ジャーナル. 2017; 73(1):62-67.
- 大森純子. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会（2017年1月21日—22日仙台国際センター）メインテーマ「公衆衛生看護のソーシャルデザイン—人々と共にまちとくらしの未来を拓く—」, 公衆衛生情報みやぎ. 2017; No.469:1-2.
- 大森純子. 公衆衛生看護のソーシャルデザイン—人々と共にまちとくらしの未来を拓く—. 日本公衆衛生看護学会誌. 2017;6(1):73-82.

4. 国際学会発表

--

5. 国内学会発表

- 高橋恵子, 亀井智子, 大森純子, 有森直子, 麻原きよみ, 菱沼典子, 新福洋子, 田代順子, 大橋久美子. 市民と看護職とのパートナーシップに基づく「People-Centered Care」の概念の再構築. 第37回日本看護科学学会学術集会; 2017 Dec 16-17; 仙台.
- 大森純子. 看護科学学会学術用語検討委員会 ワークショップ 第37回日本看護科学学会学術集会; 2017 Dec 16-17; 仙台.
- 小澤涼子, 吉田礼維子. 第一次産業従事者の健康を支援する保健師のアプローチ. 第37回日本看護科学学会学術集会; 2017 Dec 16-17; 仙台.
- 今野浩之, 沼澤さとみ, 高橋直美, 山田香, 槌谷由美子, 井上京子, 南雲美代子, 遠藤恵子. 模擬患者・家族の二者を対象とした面接時における看護学生の思考の特徴—面接後の振り返りの分析から—. 第37回日本看護科学学会学術集会; 2017 Dec 16-17; 仙台.
- 沼澤さとみ, 今野浩之, 高橋直美, 山田香, 槌谷由美子, 井上京子, 南雲美代子, 遠藤恵子. 看護学生の患者・家族の二者を対象としたコミュニケーションの特徴—模擬患者・家族との面接場面の分析—. 第37回日本看護科学学会学術集会; 2017 Dec 16-17; 仙台.
- 佐藤志保, 井上京子, 高橋直美, 今野浩之, 槌谷由美子, 菅原京子, 遠藤恵子, 後藤順子, 沼澤さとみ, 遠藤和子, 安保寛明, 渡邊礼子, 齋藤愛依, 前田邦彦. 「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育効果—履修証明修了生の職場上司による評価—. 第37回日本看護科学学会学術集会; 2017 Dec 16-17; 仙台.

- ・佐藤志保, 高橋直美, 峯田雅寛, 半田直子, 沼澤さとみ, 井上京子, 今野浩之, 菅原京子, 前田邦彦. 「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育に際してのシミュレーターを活用した教育・研修の取り組み. 第10回東北シミュレーション医学医療教育研究大会; 2017 Nov 2; 福島.
- ・吉澤彩, 田口敦子, 大森純子. 看護拠点を立ち上げた看護師の地域におけるケアの特徴. 第76回日本公衆衛生学会総会; 2017 Oct 31-Nov 2; 鹿児島.
- ・柳澤萌美, 田口敦子, 大森純子. 東日本大震災における5年間の心のケアニーズの変化<住まうことに着目して>. 第76回日本公衆衛生学会総会; 2017 Oct 31-Nov 2; 鹿児島.
- ・菅野史夏, 竹田香織, 大森純子. 乳がん検診の受診行動を促進, または阻害する要因に関する文献検討. 第76回日本公衆衛生学会総会; 2017 Oct 31-Nov 2; 鹿児島.
- ・伊藤海, 田口敦子, 松永篤志, 山崎菜穂子, 竹田香織, 村山洋史, 大森純子. 「互助」の概念分析-地域包括ケアシステムにおける互助促進モデルの開発に向けて-. 第76回日本公衆衛生学会総会; 2017 Oct 31-Nov 2; 鹿児島.
- ・田口敦子, 村山洋史, 竹田香織, 伊藤海, 藤内修二. 住民組織活動を通じたソーシャルキャピタルの醸成・活用の現状と課題(第1報). 第76回日本公衆衛生学会総会; 2017 Oct 31-Nov 2; 鹿児島.
- ・村山洋史, 田口敦子, 竹田香織, 伊藤海, 藤内修二. 住民組織活動を通じたソーシャルキャピタルの醸成・活用の現状と課題(第2報). 第76回日本公衆衛生学会総会; 2017 Oct 31-Nov 2; 鹿児島.
- ・川崎千恵, 北宮千秋, 吉田浩二, 大森純子, 小西恵美子, 菊地透, 折田真紀子, 小野若菜子, 三森寧子, 小林真朝, 永井智子, 遠藤直子, 江川優子, 荒木田美香子, 麻原きよみ. 保健師の基礎・現任教育に必要な放射線に関する教育内容 福島県・隣県保健師の原発事故当時の経験に基づく認識から. 第6回日本放射線看護学会学術集会講演集. 2017 Sep 2-3; 名古屋.
- ・剣持麻美, 松永篤志, 田口敦子, 佐藤日菜, 山内悦子, 菅野エリ子, 浦山美輪, 永田智子. 退院後在宅療養を継続できた患者へ医療スタッフが行ったケアの特徴とそれを可能にした要因に関する質的研究. 第20回日本地域看護学会学術集会; 2017 Aug 5-6; 大分.
- ・吉田礼維子, 若山好美, 小澤涼子, 針金佳代子, 白井英子. 介護予防事業における成果についての保健師の認識と介護予防システムを推進する活動との関連. 日本地域看護学会第20回学術集会; 2017 Aug 5-6; 大分.
- ・田口敦子, 松永篤志, 倉田里衣子, 山内悦子, 後藤悦子, 浦山美輪, 菅野エリ子. 外来における在宅療養支援カンファレンスの実態および標準化に向けた試行(第1報). 第19回日本医療マネジメント学会学術総会; 2017 Jul 7-8; 仙台.
- ・倉田里衣子, 田口敦子, 松永篤志, 山内悦子, 後藤悦子, 浦山美輪, 菅野エリ子. 特定機能病院の外来における在宅療養支援に関する啓発ツールの開発と有用性の検討. 第19回日本医療マネジメント学会学術総会; 2017 Jul 7-8; 仙台.
- ・山内泰子, 後藤悦子, 山内悦子, 田口敦子, 松永篤志, 永田智子. 外来での在宅療養支援カンファレンスの標準化と実行可能性を高めるための試行. 第19回日本医療マネジメント学会学術総会; 2017 Jul 7-8; 仙台.
- ・山内悦子, 後藤悦子, 浦山美輪, 菅野エリ子, 田口敦子, 松永篤志, 倉田里衣子. 外来における在宅療養支援カンファレンスの実態および標準化に向けた試行(第2報). 第19回日本医療マネジメント学会学術総会; 2017 Jul 7-8; 仙台.
- ・大森純子. 会長講演「公衆衛生看護のソーシャルデザイン—人々と共にまちとくらしの未来を拓く». 第5回日本公衆衛生看護学会(講演集P39-40); 2017 Jan 21-22; 仙台.
- ・麻原きよみ, 荒木田美香子, 江川優子, 遠藤直子, 川崎千恵, 北宮千秋, 小林真朝, 小西恵美子, 三森寧子, 永井智子, 大森純子, 小野若菜子, 折田真紀子, 梅田麻希. 保健師基礎教育における放射線教育の実態. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2017 Jan 21-22; 仙台.
- ・菊地愛未, 荒川恵子, 長雄市子, 佐々木彩, 田口敦子. 東日本大震災から5年経過したY地区の現状と健康課題. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2017 Jan 21-22; 仙台.
- ・佐々木彩, 荒川恵子, 菊地愛未, 長雄市子, 田口敦子. 被災地における運動による絆づくりの取り

組み. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2017 Jan 21-22; 仙台.

- ・長雄市子, 荒川恵子, 岡村圭子, 五ノ井洋子, 永野陽子, 佐々木彩, 菊地愛未, 高橋香南子, 田口敦子. 東日本大震災の被災地域の地区担当保健師として活動して外部から任期付職員保健師として被災地域を担当する意味. 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2017 Jan 21-22; 仙台.

6. 外部資金獲得 (主任研究) ※2017年度の新規獲得のみ (継続分は昨年度報告済み)

--

7. 外部資金獲得 (分担研究) ※2017年度の新規獲得のみ (継続分は昨年度報告済み)

--

8. 外部資金獲得 (その他) ※2017年度の新規獲得のみ (継続分は昨年度報告済み)

--